

かねざわ

第78号

2021年（令和3年）11月

- (P-2) 運営委員会からのお知らせ：2020年度会員継続受付のお知らせ
(P-18) 会員からの投稿 “わ”の会の人々

目次

運営委員会からのお知らせ

- 2 2022年度の会員継続受付のお知らせ
運営委員会

学習会

- 3 第3回学習会
「北条氏康の武蔵・上野侵攻」
9 第4回学習会
「拓本で知る武州かねざわ」
12 第5回学習会
「横須賀浦賀に帰ってきた引揚民」

会員からの投稿

- 18 「わ」の会の人々

分科会からの便り

- 19 「寺社を巡る会」活動記録
21 「古文書を読む会」
23 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 NO34
代表 柴崎 幸治
24 「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 NO36
代表 鶴岡 重典
27 「浮雲俳句会」抄録 NO54
代表 太田 耕蔵
32 「パソコンを使いこなす会」
実施報告 NO6
36 行事予定（12月～2月）



金沢区生涯学習 “わ” の会

ホームページ：<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>
メー ル：yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

金沢区生涯学習 “わ”の会

1. 会員継続の申込受付

2022 年度の“わ”の会への入会は、例年通り現会員を優先いたします。現会員の継続受付は、本日 11 月の学習会から開始し、来年 2 月公開歴史講座でも受け付けます。継続を希望される場合は領収書・申込書に必要事項をご記入のうえ、年会費 3,000 円を添えて、本日 11 月の学習会でお申込下さい。また、継続ご希望で、学習会での手続きが出来なかった場合は、2月 20 日(土)までに下記(2)の銀行口座へ年会費 3,000 円をお振込下さい。なお、11 月 30 日をもって、会員の優先申込を締切らせて頂きます。

- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| (1) 学習会で申込の場合 | 申込書にて申込ください (11 月の学習会、2月の公開歴史講座) |
| (2) 銀行振込で申込の場合 | 振込先 (2022/2/20 まで) |
| | 横浜銀行 金沢支店 (店番号 351) 普通預金口座番号 1324219 |
| | 名義人 金沢区生涯学習わの会 代表 江口 正彦 (エグチ マサヒコ) |

2. 2022 年度の学習会計画

学習会ごとの皆様からのアンケートなどを参考に、下表のような 2022 年度の学習会計画を作成しました。講師・会場・テーマにつきましても、一部変更の可能性のあるものもございます。それらにつきましては確定次第、会報やホームページでお知らせいたします。

回	開催日	テーマ	講師	会場
1	5/14 (土)	9:30~10:30 総会	運営委員会	能見台地区センター
		10:45~11:45 室町・戦国時代の六浦・金沢	“わ”の会会員 松崎 寛氏	能見台地区センター
2	6/12(日)午後	北条氏の滅亡と徳川氏の江戸入府	東京大学 文学部 研究員 谷口 雄太氏	金沢地区センター
3	7/9(土)	中先代の乱	中世内乱研究会 会長 鈴木 由美氏	能見台地区センター
4	8/19(土) 予定	金沢文庫展示関連(詳細未定)	未定	県立金沢文庫
5	9/10(土)	仮題 米倉家関連テーマ	横浜市歴史博物館 主任学芸員 小林 紀子氏	金沢地区センター
6	10/7(金)	[探訪・仮題] 鎌倉殿 13 人	探訪実行委員会 NPO 法人 鎌倉ガイド協会	検討中
7	11/12(土)	仮題 齋藤道三関連テーマ	東洋大学 文学部 准教授 木下 聡氏	能見台地区センター

第3回学習会

『北条氏康の武蔵・上野侵攻』

編集委員 橘 博章

開催日：2021年7月18日（日）

9：30～12：00

会場：横浜市立大学 本校舎304教室

講師：東洋大学 准教授 木下 聡 氏



概 略

ある集団にとっての行動判断基準が、自分たちにとって「より安全か？より低コストか？より有利か？」という原則だけで行動していた時代があった。後世の倫理観も法律も道徳もなく、集団（一族、村、国）の判断によって、関東の地で争っていたこの時代は、リーダーの主導の下に社会が統御されることもなく、異質で多様な価値観が拮抗し、先行きが見えない物騒な社会である。その中で彼らの行動が非常識で、非道徳的だったかと言えばそのようなことはない。彼らは彼らなりの「常識」や「道徳」があり、みなそれに従って行動していた。現代に生きる私たちの常識や道徳と、彼らの信じる価値観が異なるだけであって、両者に優劣はない。

これらを北条氏の立場から検証したのが今回の木下先生の講演であった。

北条氏がまだ伊勢氏と名乗っていた1495年ごろ宗瑞の時代に伊豆の韮山より小田原に進出し、ここを拠点として相模、武蔵、上野へと侵攻していく過程は必ずしも順調に進んだわけではなかった。それから約17年後の1512年に岡崎城（伊勢原市）を奪取、三浦半島を除く相模一

国を支配する。三浦氏は相模・住吉城（逗子市）へ撤退し伊勢氏は玉縄城（鎌倉市玉縄）を築城し、三浦半島への補給を遮断、援軍の太田資康をも討ち取る。ここに宗瑞は、1516年に鎌倉時代から続く三浦氏をついに滅亡させ、相模を完全制圧した。三浦水軍の一族を倒したことにより、相模湾から伊豆七島、さらには東京湾を伺う制海権を得た。1523年、伊勢氏は北条と氏を変える。

1524年1月、扇谷上杉氏が武蔵の国へ侵攻、高輪原の戦い（東京都港区高輪）で北条氏は扇谷勢を撃破し、更に江戸城を攻略する。太田資頼の寝返りにより、岩付城（埼玉県さいたま市）は落城。蕨城（埼玉県蕨市）をも攻略し、また、毛呂城（山根城）（埼玉県入間郡毛呂山町）城主の毛呂太郎・岡本将監が北条方に属したため、毛呂～石戸（埼玉県北本市石戸）間を手中にし敵の松山城（埼玉県吉見町）～河越城（埼玉県川越市）間の遮断に成功した。

1552年、北条氏の圧力に耐えかねた関東管領の上杉憲政は、上野国より謙信の本拠地である越後国に逃れ、謙信（当時は長尾景虎）に保護された。

これにより大義名分を得た謙信の関東侵攻が始まり、関東は新たな局面に入っていく。

小田原の地理的条件

北条氏の居城がある小田原は関東平野の西南端にある。関東平野の川はほぼ北から南へと流れこれが天然の堀であり、障害にもなる。川は南北への兵員や食料の輸送にも必要不可欠である。北から南へ流れている川は北からの侵攻側にとって優位に働く。北条氏側は防衛線を突破されれば、敵は容易に本拠地まで侵攻できる。

また、河東地区（富士川まで）を占領したことにより小田原までの縦深性は増したが今度は今川側との新たな抗争の火種となった。しかし甲相駿三国同盟が締結されたことにより、北条氏側の西部戦線への重圧は解消され、北方戦線に主力を投入できるようになる。上杉謙信は強敵ではある

がいずれにしても越後は遠方である。その後、三国同盟は解消されたが、武田氏が正面の敵となったとき、三島、御殿場、八王子、前橋・高崎方面からの侵攻を招くこととなる。

関東の要衝を占める北条氏の領地は関東諸侯の十字路となり、その本拠地まで敵は侵攻し、何度も小田原の城下は戦火に焼かれ、大軍に城を包囲されるという窮地に陥った。防衛的には非常に不利な場所にある小田原城を地域住民の避難所としての機能を持たせ、敵の兵站が尽きるまで安心して籠城戦が出来るよう強固に要塞化していた。

飢饉と戦争

1557年の天候不順をきっかけに永禄年間（1558年～1570年）は飢饉が長期化した。北条領国を含む東国における飢饉の原因は、自然災害だけではなく、永禄3年9月（1560年）から永禄10年（1567年）まで続く越後上杉謙信の関東への侵攻時は越後でも飢饉であった。時、9月はまさに秋の収穫期であり、関東侵攻の第一の目的は食料の確保が考えられる。自国の飢饉対策として、他国へ侵攻し、自国の飢饉下での口減らしと、食糧確保の一石二鳥を狙ったのであろう。飢饉・飢饉が戦争を誘発し、それがあまりにひどくなると戦争が終息に向かうことは歴史の必然である。

「戦国期の軍勢=略奪集団」というのは、当時では一般常識のようなものであり、「正義の軍、降魔の軍団」と称せられるような謙信率いる上杉軍もその例外ではない。関東遠征を繰り返したのは亡命してきた関東管領・上杉憲政を扶けることを大義名分としてはあったが、北条方の領国での略奪、捕えた老人や子供たちの人身売買などが謙信容認の下で行われていた。軍の秩序や名誉を重んじる謙信個人としては好まざることとしても、総大将の立場上、家臣や味方する国人衆などの出稼ぎ行為は認めるしかなかったのであろう。何れにしても、関東での略奪行為は、関東の世情不安を煽り、謙信の関東遠征やその統治の失敗に繋がっていくのだ。

謙信が秋から冬にかけ、上越国境を越えて関東遠征を繰り返した第二の目的としては、関東の温暖な気候が挙げられる。豪雪・強風地帯でもある厳冬の越後では凍死する人も多い。温暖で雪のない関東は、謙信や越後将兵たちにとって、別世界に見えたであろう。

今日でもTVなどで、豪雪地帯での屋根の雪下ろし等を見るにつけ、その大変さはいかばかりかと思ひ遣る。ストーブなどのない時代、薪木や木炭も簡単には用意できず、謙信にとって一国を維持する上で温暖な気候である関東進出

は熱望するものだったのではないだろうか。

この時代において、「北条氏が里見氏を何故最後まで攻略できなかったのか」、「戦国大名と国

衆との関係」、「日本三大奇襲戦である河越夜戦の実態」、「当時の兵站や戦国大名の戦費の捻出方」など疑問は多々あります。

次回以降もよろしくお願い申し上げます。



2021 年度第 3 回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2021.7.18 晴れ)

【北条氏康の武蔵・上野侵攻】 講師：木下 聡氏

出席者		一般会員	委 員	計（出席率%）	ビジター	合計	アンケート（提出率%）
	男	47	7	54(64.3)	0	54	39(66.1) 39/59
	女	10	0	10(45.5)	2	12	
計		57	7	64(60.4)	2	66	

①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
13 名	17 名	8 名	1 名	0 名

- ・ちょっと、上杉、北条の関係が分かりにくかった。
- ・話し方が聞き易く、非常に分かり易かった。
- ・分かり易く説明していただきありがたかった。
- ・内容が多く少し理解しにくい部分もあったが丁寧な説明でかなり理解出来た。
- ・楽しく受講させて頂きました。少々わからない話が有った。
- ・レジメがわかりやすかった。
- ・レジュメがよく出来ており、講演を補足していた。内容は難しく今一であった。
- ・解りやすい御説明。
- ・北条の流れが少し理解できた。
- ・発声が大きくはっきりとテンポ良く聞きやすく理解させた。
- ・後北条の関東支配が詳細で理解出来た。
- ・領国図がある事によって話の内容と位置が分かりやすかったです。城好きな者にとっては、沢山のあった城の名前が出て聞き入りました。
- ・北条の武蔵・上野侵攻が具体的に話され、信玄、謙信の話も含め解りやすかった。
- ・戦国時代については、不勉強で分からないことがたくさんあります。北条氏の誕生、はじめ扇谷上杉氏と山内上杉氏の違い、いろいろな同盟など前回の講義と合わせて北条氏康について少しずつできてきました。
- ・ていねいな説明でわかりやすい。図や絵を大きくスクリーンで出してくれれば、尚わかりやすいと思います。
- ・戦国時代の伝記に興味があるから。
- ・内容になじみが薄く、複雑で難しかった。
- ・複雑な三国同盟を分かり易く解説していただいた。
- ・資料、話の内容、話し方どれもとてもわかりやすかった。
- ・後北条の時代の流れが良くわかった。
- ・レジメと話が一致していて解りやすかった。
- ・北条氏の関東制圧を軸に時の流れを丁寧に説明された。大方はそれなりに理解をしている部分ながら、分かり易い説明に満足。

- ・後北条の盛衰については今一つよく分からなかったが、大筋について理解を深めた。
- ・余りにも複雑な関係なので推移を理解することに精一杯であった。むしろ戦国時代のこのような戦いに明けてきている背景はどういうことか？という観点からの解説が欲しかった。
- ・北条氏と上杉氏の関係などが少し理解できた。
- ・北条氏の武蔵・上野侵攻と扇谷・山内両上杉との抗争がよく判りました。今川・上杉謙信、武田との抗争の様子が判りました。

②木下講師に希望する講演テーマについて

- ・著書に「齋藤氏四代」とありましたので、こちらの内容からお聞きしたいです。
- ・上杉謙信の話をもっと聞きたいと思います。
- ・続きがと思います。
- ・武田信玄の実像について。
- ・室町幕府に関連したテーマ

③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
15 名	18 名	3 名	0 名

※チェック無し：3 名

- ・新教室での運用が良かった。
- ・全体的にスムーズに実施され良かったです。
- ・進行が手際良かった。
- ・暑い中、コロナの中本当にありがたく思っています。
- ・コロナ問題で場所をさがすのが大変でしょうが今後共宜しくおねがい致します。
- ・教室内での講義は話が身近に感じられよかった。
- ・資料、進行が十分でした。
- ・いつもながらスムーズな運営に腐心しご苦労様です。
- ・コロナ禍の中での運営ご苦労様です。
- ・いつもながらの行き届いた運営、ご苦労様です。
- ・換気等コロナ対策を充分で、進行もスムーズだった。

④ “わ” の会について

- ・企画、運営、担当の方々におまかせと感謝です。
- ・コロナ禍の中、役員の方々ありがとうございます。
- ・金沢区の歴史を中心に！
- ・“金沢区に軸足を置いているので、講演内容にも何らかの「金沢」と結びついたものにして欲しいと講師にお願いししてください。（多少無理なコジツケになってもいいでしょう）

- 6月と同様に、昨年予定したテーマを一年延期し実施できました。
- 6月の谷口講師の講演を受けて「北条氏康の武蔵・上野侵攻」について講演していただきました。
- 伊勢宗瑞(北条早雲)が伊豆から関東(小田原)に進出し、2代目氏綱が武蔵へ進出していき、3代目氏康が武蔵・上野に侵攻していくことが分かりました。ただし、その過程では、両上杉の争い、上杉謙信、武田信玄、今川それに里見なども絡んでおり複雑であった。
- 北条氏は、関東での統治の仕方である公方と管領を利用し、他国の者の名では問題があるため、過去の有名な北条を名乗り関東の武士を味方にしていくことで支配地を拡大している。名については、上杉謙信も同様であったようだ。
- この時代の戦は常時行われているのではなく農閑期が中心で、謙信は収穫が終わった後に関東に攻め入り収穫物を得たりしていたようだ。
- 氏康の上野侵攻について、河越城などのお城をとったりとられたりを繰り返されているようですが平民はどう対応していたかを知りたいと思いました。

第4回学習会

「拓本で知る武州かねさわ」編集委員 斧原良一

- ・開催日 2021年8月20日（金） 10:00～
- ・会場 神奈川県立金沢文庫 大会議室、展示室
- ・講師 神奈川県立金沢文庫 主任学芸員 山地 純氏

今回の学習会は、県立金沢文庫の企画展へ“わ”の会が参加する形で行われました。まず大会議室にて企画を担当された学芸員の方から1時間ほど展示の趣旨、内容について説明を受け、その後、展示物を見学しました。コロナ感染防止対応のため、入館時の検温、入室時には手を消毒し、展示見学も密を避けるために、2班に分けて実施しました。

企画展のタイトルが比較的“地味”というか“マニアック”な感じがしたので、あまり大きな期待はしていませんでしたが、ベテラン学芸員の説明を聞くにつれて面白さに引き込まれていきました。解説は、拓本の種類と取り方から始まり、金沢に残る石碑・石仏・道標などの拓本や写真・古い絵図等の豊富なスライドを使って進められ、金沢の歴史と重ね合わせた説明によって分かりやすく興味深いものになりました。鎌倉時代から続く金沢は江戸時代や明治期には景勝地として多くの人が訪れ、その人々のために、また地元の商魂たくましく人々によって道標や石碑が多く設置されたようです。

見たことのある石碑がいくつも登場しそれが古い絵図の中にも描かれていて、もの言わぬ石を通してあらためて歴史の町金沢を身近に感じました。

拓本の収集は、自分でとるか寄贈を受けるかになりますが、いずれにしても、それが何であるか、採取した場所、本体の寸法、何時とったかの記録などが重要でそれをきちんと積み上げることで歴史学上の価値が出てきます。学芸員の地道なフィールドワークとしっかりとした研究姿勢に感心し

ました。

道標や石碑が周辺の開発や道路改修のために公園など別の場所に移動させられたり、同じ場所にあっても街道沿いの土地が住宅地に変わり道標だけがポツンと取り残されていたりと、開発を優先するあまり歴史を顧みない時代の流れにふっと寂しさも感じました。この学習会のあと称名寺付近の石碑を改めて見直してみました。町を歩くときも興味を持って様々な石碑を見るようになりました。いままでただの石塊としか見えていなかったものが、長い歴史の中でしっかりとその役割を果たして今ここにあるのだと思うと、石の中から何かが輝き出すように感じられます。

企画展では、金沢三十四観音札所に関するものも多く展示されていました。称名寺の裏山に百観音があることはよく知っていましたが、称名寺を第一番とする金沢札所については認識がありませんでした。昔の人も信仰と観光を兼ねて旅を楽しみ、またそれを商売に結び付けるしたたかさもあったのでしょね。

観音様と言えば、50年も前に亡くなった祖母が仏壇に線香を3本立てていました。小さかった私に「1本は死んだおじいさんに、1本はご先祖様に、もう1本は裏山の観音様にあげるんだよ」と言っていたのを思い出します。私の家は県立金沢文庫のすぐ近くにあり、百観音は当時、称名寺の裏山全体に配置されていて、札所を巡り歩くような形になっていたのです。我が家のお線香は、最初の1本の対象こそ変りましたが、今でも3本立てです。

2021 年度第 4 回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2021.8.20 晴れ)

【拓本で知る武州かねさは】 講師：山地 純氏

出席者		一般会員	委 員	計（出席率％）	ビジター	合計	アンケート（提出率％）
	男	36	7	43(51.2)	0	43	15(36.6)
	女	5	0	5(22.7)	0	5	
計		41	7	48(45.3)	0	48	15/41

①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
9 名	6 名	0 名	0 名	0 名

- ・石碑や拓本に注目しての講演おもしろかったです。
- ・拓本の仕方が分かった。
- ・昨日 8/19 保土ヶ谷から金沢道を上大岡迄(海の道)歩いて、碑を確認してきたので、興味深くお話を聞くことが出来ました。
- ・発声がはっきり、内容も整理されたもので金沢区の歴史を引き付ける。
学芸員の興味ある言葉で知ることが多く楽しむ。
- ・じつにおもしろかった。古文書の会で“かねさは道”を歩いたが、その時昔の道標が半分近くなっていたのを思い出した。
- ・金沢に札所 34 が有ることを初めて知る。
- ・身近な石碑のことを聞かせていただいた。次に稱名寺文書について話してほしい。
- ・知らない石碑を教えてくださいました。
- ・石碑に刻まれた文字は長い期間残り歴史がわかる事がよく理解できた。その文字を拓本にとることにより誰でも読む事ができるようになっている。金沢にはたくさんの石碑が残っていてこれからも保存しなくてはいけない。
- ・地元の話で興味深い。
- ・金沢の歴史を再勉強した。
- ・「拓本」から“かねさは”の歴史を知る。

②学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
7 名	6 名	0 名	0 名

※チェック無し：2 名

- ・このご時世に運営してくださり感謝いたします。

- ・ 2 Gr に分けたのはよかった。
- ・ コロナ禍の企画ありがとうございます。
- ・ コロナ禍の運営の努力に感謝します。

③ “わ” の会について

- ・ 係の人達の運営に感謝。
- ・ 今後共宜しくご指導お願いします。
- ・ 生涯学習の見本のように思っています。

運営委員代表の意見・感想

- ・ 金沢文庫は休館中で予約のみ閲覧可能という中での企画展のグループ解説を行っていただきました。
- ・ 今回の企画展は石碑、石仏、道標など移動できないものを表現する方法として拓本でみていただく展示です。
- ・ ここ金沢周辺には多くの石碑、石仏、道標が存在しており、それを拓本での説明ですが、その時代、場所の背景など細かい説明で分りやすかったです。
- ・ また、提出、寄贈されたものについては、時期などの記録が明確なものを厳選されるということには研究に感心した。
- ・ 今後、石碑、石仏、道標を見かけた時は見る目が変わっていくと思います。

第 5 回学習会

【横須賀浦賀に帰ってきた引揚民】 編集委員 鶴岡重典

- ・開催日： 2021 年 9 月 11 日(土)
- ・会場： 横浜市立大学カメリアホール
- ・講師： 防衛大学校名誉教授 田中宏巳氏



【概要】

【はじめに】

本日の講演は『横須賀浦賀に帰ってきた引揚民』と題するもので、今年 3 月の公開歴史講座でも講師を務めていただいた田中宏巳先生に再度ご登場いただいた。会員の中には自身あるいは親族に引揚体験者が多数おりビジター 10 名を含む 80 名の参加を得る盛況となった。なお、講演自体も正味 2 時間を超える熱意のこもったものであった。

【講演内容および感想】

昭和 20 年 8 月の天皇による停戦命令後海外在留の邦人 600 万人（軍関係者＋民間人）が故国に向け引揚を開始する。しかし、それはどこからの引揚かによってかなり条件の異なるものとなった。特に過酷だったのはシベリアに抑留された人々である。私の父親や義父もシベリア抑留組であるが、厳しい気候条件下での強制労働、思想教育など過酷だった体験話を私自身何度も聞かされていた。

【浦賀の引揚民】

浦賀の引揚民は約 56 万人。全体の引揚者に占める割合は約 10%で南方からの引揚者を中心。激戦地でかろうじて生き残ってきた者たちで消耗度も高く、帰国途中あるいは帰国後に亡くなった人も多かったようである。帰国時期は終戦翌年の昭和 21 年が多く、出身地別では九州、沖縄出身者が多い。帰還者は上陸手続き（荷物検査、健康診断など）を経て、家族のもとに帰る。浦賀引揚援護局では収容援護所で一連の手続きを行い故郷に帰ったり、別の土地に行ったりしたようである。大都市圏の近郊に入植した者の中には戦後の高度成長期後の土地高騰で思いがけず大富豪になった者も一部ではあるがいたようである。なお、当地金沢にも昭和 30 年頃まで横浜援護所（長浜の横浜検疫所に設置）があり、引揚援護業務が行われていたということは私自身認識しておらず驚かされた。

【おわりに】

終戦以降わずか数年で約 600 万人にも及ぶ引揚者が何とか故国に帰還できたことが、戦後日本の奇蹟的経済復興につながったという点は間違いない事実だと思う。歴史の見方はその立ち位置によって全く異なった様相を見せることがある。田中先生はデータを丹念に

集めそこから事実を探し出すというスタンスをとっている。個人的にはそういったスタンスでの歴史観を支持したいと思う。なお、今回の講演を聞いて 10 月に予定されている恒例の秋の探訪（「長浜検疫所の遺構を訪ねる」）がますます楽しみになってきた。



2021 年度第 5 回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2021.9.11 曇り)

【横須賀浦賀に帰ってきた引揚民】

講師：田中 宏巳氏

出席者		一般会員	委 員	計（出席率%）	ビジター	合計	アンケート（提出率%）
	男	55	8	63(75.0)	8	71	43(59.7) 43/72
	女	7	0	7(31.8)	2	9	
計		62	8	48(66.0)	10	80	

①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
21 名	17 名	4 名	0 名	1 名

- ・海軍にいた亡父を想いだしながら聞いていました。無事に父は戻り、後に自分史で戦中の話を書いていましたので、今日の話で深く知る事(納得)が出来ました。
- ・具体的な進め方。資料の提示、明解。話のテンポ聞きやすい。終戦後の本土へ対する意欲・日本への思い。
- ・詳細なデータに基づく解説で納得した事が多かった。体験に基づく余談も良かった。
- ・知らない事ばかりで、興味深く伺いました。たくさんの資料から意味づけなど
- ・引き上げの真実が分かりました。
- ・復員・引揚の区別等基本的なことから教えて頂いて有益でした。戦中・戦後の状況を整理して教えて頂けて助かりました。浦賀の受入数が舞鶴と同じ位とは知らなかった。
- ・たくさんの数値など、資料の充実。これまで知らなかったことの数々。
- ・敗戦に伴う帰還に関する諸問題について初めて聞くお話で良かった。
- ・本や地域に残る話にもない内容を聞けて良かった。
- ・国による捕虜収容の違いがわかった。引揚のくわしい手続きや流れなど資料と共に理解できた。祖父がニューギニア戦線生き延びオーストラリアの捕虜収容所から引き揚げたのでそのことから興味深かった。戦争ってやってしまったら大変！絶対だめだと思った。
- ・戦後の引揚の状況が詳細に説明され理解した。
- ・戦後の歴史が良く分った。浦賀引揚民のテーマが理解できた。
- ・子供の頃の話であったが大変興味深いものがあった。現在を見るに隔世の感がある。平和の有難さをつくづく感じる。
- ・多くの調査をもとにした話を聞かせてもらいました。小生の長兄、次兄がこの大戦に行っており長兄は戦死、次兄は収容所にいられ昭和 22 年に復員しています。あまり戦地の話はしたがらず、収容所生活のエピソードを 2・3 聞いたことがあるだけ。もう少し聞いておくべきと反省。
- ・各種の数値を用いて捕虜引揚げのようすを解説していただいた。
- ・戦後直後の政策状況が良く分った。
- ・新型コロナウイルス感染の時代だけに、浦賀港での引揚船コレラ発生についてもっと詳しく話してほしいかった。

- ・新発見が得られたのはよかった。
- ・660 万人の引揚者の動向がわかり良かった。戦争は良くないと再確認できる資料を見ることができよかった。
- ・かなり詳細な引揚者、復員など帰還事業の話を伺う事ができ、戦争とは何であったか改めて考えさせられた。
- ・引揚に関して知らなかった事がていねいな説明で良くわかった。父は引揚でなく病気(マラリア)により中国大陆より帰還。養父は千島からシベリアへ送られ戦後引揚げ。このように終戦時の出来事は身近なものであった。
- ・当時小学生でありその後も引揚の実情を話してくれる人はなかった。今日わかったことは非常に多い。参考になった、ばらばらの知識が少しつながってきた。
- ・抑留された 知られざる日本軍と日本兵の実情。日本軍のマネージメントの弱さ際立つ。とにもかくにも引揚者は大変なご苦労されたであろう。
- ・引揚げ、復員の歴史で知らなかった事が多く有り興味深く聞かせて頂きました。
- ・引揚げについて、初めて知ることが多かった。興味深い話だった。
- ・近代史の語られなかった内容であり興味深かった。
- ・物心ついてきた頃のお話で興味深かった。きちんとしたデータがない中、立派な研究だと思った。
- ・戦争当事者が少なくなって来る。語り継ぐ大切さが将来の平和をもたらすと思う。その意味で意義ある学習会内容であった。引揚船で義父とふた子を亡くした義母と我が妻の苦労話と合致した講演だった。
- ・当時は大変だったんだろう。現在の政治家たちはこの様な局面で対応できないだろう。
- ・復員 330 万人の未曾有の民族移動は本当に大変だったことが良く分かった。それにしても敗戦後の後始末を考えると戦争(敗戦)はすべきものではない。ドイツの民族移動が 2,400 万人とはなにか知りたい。
- ・戦争における悲劇として大事な話であるが、先生の話は戦争における話が多くて個人個人の苦しみについて話されて欲しかった。
- ・引揚の事知らない事ばかりでした。
- ・貴重な話であった。
- ・珍しい話だった。
- ・興味深い内容でした。

②田中講師に希望する講演テーマについて

- ・田中講師の得意な分野等
- ・太平洋戦争で日本はどうすれば勝てたかという妄想を話して欲しい。
- ・第 2 次大戦に関する話。
- ・今後の日本の安全保障について。
- ・終戦後の英国による日本兵の強制労働の内容。各国、各地の日本兵 BC 級戦犯の状況。
- ・日本の防衛力、戦闘機の歴史
- ・横浜、横須賀の戦争遺跡について
- ・終戦関連の話を他にも・・・
- ・中国の南洋進出と太平洋戦争
- ・第二次戦争の歴史に関する史実を聞きたい。

③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
17 名	19 名	4 名	0 名

※チェック無し：3 名

- ・いつもながらお疲れ様です。
- ・コロナ禍、御苦労様です。
- ・良い講師を探してくれてありがとうございます。
- ・運営が良かった。
- ・コロナ禍で開催できたのは良かった。
- ・いつも、役割分担され学習会が進められておりました。感謝、感謝です。
- ・スムーズでした。
- ・役員の方々ご苦労様でした。
- ・毎回の準備、ご苦労様です。

④ “わ” の会について

- ・いつも一年先以上を見据えて立案されていることを見て感心しています！
- ・会員の為にいつもご苦労様です。
- ・毎回ご苦労様です。
- ・三密対策しながらの学習会開催ご苦労様です。
- ・いつも有難うございます。
- ・毎回の学習会、種々の学習会内容担当者の企画に感謝します。

運営委員代表の意見・感想

- 今回は、緊急事態宣言の延長で開催が危ぶまれましたが、何とか開催できホッとしております。
- 今回のテーマ「横須賀浦賀に帰ってきた引揚民」について、引揚港というどうしても舞鶴港が浮かんできますが、講師より引揚港で舞鶴港(引揚者数 3 位)の次に多いのが浦賀港であるが、ほとんど知られていない。また、金沢地域にも引揚者住宅と農耕入植地先があったのでいいのではというテーマ選定でした。今回のテーマは大変良かったと思いました。
- 講演は、引揚、復員などの用語説明と終戦時の日本と連合軍との戦後処理など詳しい説明があり、そのうえでの引揚の説明でしたので大変理解し易かったです。
- 全体で 660 万人の引揚者がいて、軍人と民間人が約半分ずつ、そのうち浦賀には 564,625 人が引揚した。大半が南西太平洋からの引揚でコレラ感染者などもふくまれており帰還船で入港後すぐ復員兵の体や荷物に DDT 消毒液が散布されたとのこと。
- 浦賀援護所が昭和 22 年 5 月 1 日に廃止され、金沢にある検疫所が横浜援護所として昭和 30 年まで続いた。横浜援護所は、BC 級戦犯・釈放者の送出・受け入れ、復員兵・報道関係者の受け入れとドイツ・北欧人の送還などいろいろな業務があったことが伺われた。
- 私もそうですが、家族、親族、知人等に引揚者や復員者がおられ、過去に聞いた話などと重なることがあり思いだされたことと思います。
- 今回の講演を聞き、戦争のむなしさとその後の大変さをより強く考えさせられました。

“わ”の会の人々

鶴岡 重典

我が“わ”の会の会員メンバーの最大公約数について考えてみた。

まず第1に、横浜市金沢区在住であること。これはほぼ100%に近い事実であると思う。

次に金沢区について考えてみたい。金沢区は横浜市の南端に位置し、区内の大動脈となる京浜急行線が南北に通る。大まかにいえば京急の西側が丘陵地帯、東側が平地となっており、東側が古くから開けていた住宅地または埋立てにより造成された住宅地、西側が丘陵を開発した住宅地となっている。

田畑を宅地化するのは農地法の手続きを別にすればそれ程の資本は必要としない。しかし、丘陵地の宅地化や海岸埋立てによる宅地化は多額の資金を必要とする。したがって、金沢区の宅地造成は私鉄系大資本によるものが中心で、分譲価格もそれなりのものとなる。

住民の特徴は、まず第1に東京、横浜に本社を置く会社に勤めるサラリーマンであること。分譲されたところに購入し移り住んだ人は、平均的に考えれば30歳代に購入し40年間生活しているとすれば70歳代に到達していること。新興住宅街に住まいを求めた人は親から譲られた土地ではないことから地方出身者の比重が高く地元出身者は意外に低いと想像される。

以上から（会員を住民の相似形として捉えれば）“わ”の会会員の特徴は、地方出身の高学歴サラリーマンで年齢は70歳代（つまり退職者で年金生活者）、金沢区在住歴が長く地域に対する満足度は比較的高いと推測される。

こうした人々の退職後の生活の受け皿として位置づけられるのが“わ”の会ではないだろうか。

地元満足度の高い人々が退職後に地元の歴史に興味を覚え学習する、または在職中は仕事中心で趣味に時間をさけなかった人がようやく時間ができて趣味の時間が持てるようになる。あるいは職場以外の人間関係を構築できなかった人が退職後近隣住民と急に親密になることが難しく、新たな人間関係構築の場として“わ”の会を必要とする。

“わ”の会の特徴の一つとして継続率が非常に高いこと（例年90%以上）があげられるがその背景にはこうした要因があると思われる。会員のニーズに応えることが会の存続、発展の絶対的条件であることは論を待たない。問題は会員の高齢化、社会全体の個人主義化とともに会を主体的に動かす担い手が不足してくることにある。在職中のように収入を伴うものではなく、無給による奉仕活動となるため、引き受け手がなかなか現れないのが実態である。

しかし、無給による奉仕活動にも「いいこと」がないわけではない。運営委員相互間の濃密な関係はもとより多くの会員と知り合えること、学習会講師との会談、そして何よりなのは会員が満足してくれる場を提供しているという自負心と満足感（自己満足の要素も多分にある）がある。

今後も会員継続率の高い（換言すれば満足度の高い）組織を維持するためには、会員に会費以外の何らかの応分の負担をお願いしたいと考えるのは果たして私の自分勝手な妄想なのであろうか。

（鶴岡重典 記）

『寺社を巡る会』活動記録 令和3年度第4回～第6回

第4回 「五木寛之・百寺巡礼」DVD鑑賞

開催日：令和3年8月5日（木）

参加人数：29名

【**靈山寺**】 徳島県鳴門市 高野山真言宗 創建：伝天平年間（729～749 年） 四国八十八箇所の第一番札所。聖武天皇の勅願により行基によって開創された。その後弘仁 6 年（815 年）弘法大師はこの地を訪れ、21 日間修法し靈山寺の名を付け、持仏の釈迦如来を納め霊場開創祈願をしたという。本尊の釈迦如来は左手に玉を持った坐像で弘法大師作と言われている。室町時代には七堂伽藍の並ぶ大寺院として栄えたが、殆どが焼失した。応永年間（1394～1428）に建立された下層が方形、上層が 円形の造りで五智如来が祀られている多宝塔が残る。四国遍路は靈山寺から始まり全て回ると 1,450 キロになる。遍路の姿の型式で大切なのは弘法大師の分身とされる金剛杖で、この杖について歩くことで「同行二人」だという。白装束の背中にある「南無大師遍照金剛」の「遍照金剛」は空海の別名である。日本には巡礼コースが千以上あるが、巡礼と呼ばず遍路と言うのは四国八十八箇所だけである。

【**善通寺**】 香川県善通寺市 真言宗善通寺派 創建：伝 大同 2 年（807 年） 四国八十八箇所の第七十五番札所。和歌山県の高野山金剛峯寺、京都府の東寺と共に弘法大師三大霊場に数えられる。弘法大師は讃岐国（現在の善通寺）の出身である。善通寺は唐から帰国した空海が、父佐伯直田公から寄進された寺地に建てたとされている。現在の金堂は元禄 13 年（1700 年）に高松丸亀藩主の庇護を受けて再建されたものである。金堂の

内陣にある本尊の薬師如来坐像は高さが 3 メートルもあり江戸時代の仏師運長作だという。この仏像の胎内には空海自ら彫ったというもう一つの仏像が納められているが、元はこれが本尊だった。境内からは白鳳から奈良時代に遡る古瓦が出土し、佐伯一族の氏寺として創建されたのではないかと推定されている。誕生の地に伝わり空海の自筆とされる「瞬目大師像」への崇敬がある。明治 35 年（1902 年）に完成した 45 メートルの五重塔は軸の部分が太く五層の屋根の部分が 短く「逞しい五重塔」の感がある。

【**梅林寺**】 福岡県久留米市 臨済宗妙心寺派 創建：元和 7 年（1621 年） 本尊は如意輪観音。寺の起源は丹波国福知山に立地、瑞巖寺と称していたが久留米藩に転封された有馬 豊氏が元和 7 年（1621 年）に今の場所に遷座して大龍寺と称したのが創始といわれる。後、父有馬則頼の戒名にちなんで梅林寺と改称し、久留米藩歴代の菩提所となった。寺宝の中には尾形光琳の富士山の図、長谷川等伯の屏風等 600 余点ある。一般参詣者の立ち入りが禁じられ、修行の厳しい禅寺として知られ優れた禅僧を育てる九州屈指の禅道場となり、臨済宗各本山の管長を勤める老師を多数輩出した。隣接の外苑は昭和 33 年（1958 年）開山の菟門玄級禅師の 350 年遠諱を記念し市民有志の梅やツツジの献木により作られた公園である。（熊谷滋子 記）

第5回 金沢八景の道

開催日：令和3年9月2日（木）

コース：二松庵（庭園見学）～井上馨別邸跡～伊藤博文仮寓跡～富岡八幡宮～松方正義別邸跡富岡総合公園～県警第一 機動隊（横浜航空隊格納庫跡）

上記で計画したが、新型コロナウイルス 感染リスク対応にて中止した。

第6回 逗子の寺社

開催日：令和3年10月7日（木）

参加人数：18名

コース：逗子・葉山駅(集合)―亀ヶ岡八幡宮―熊野社―久木神社―妙光寺―岩殿寺―
逗子駅前広場(解散)

半年ぶりの探訪、曇り空、参加18名ちょっと寂しい定刻の出発。逗子市役所前を通り最初の探訪先亀ヶ岡八幡宮に到着、社名の由来として、社殿に向かい緩やかに高くなり亀の背中に似ている、鎌倉の鶴ヶ丘八幡宮と対比してとの説がある。祭神 応神天皇。



亀ヶ岡八幡宮鳥居

境内には市内各所から集められた庚申塔などの石塔がある。

次は熊野社(松本寺) 祭神 伊邪那岐命 伊邪那美命。

明治2年に熊野社は火災により全焼した際、廃仏毀釈運動により廃寺となった松本寺の建物を移築し社殿とした。後の火災でその社殿は焼失してしまい現在の社殿は再建されたものである、社前の手水鉢も松本寺のものであった。



熊野社拝殿

逗子駅背後にある、山の根丘陵には山の根八十八穴と言われる古代の墓であった横穴が多数ある、その一部が社殿背後の山にある。

中高一貫校の女子校である聖和学園の前を通り、久木神社に到着。

明治7年久野原村と柏原村が合併久木村となり、同時に各字の鎮守が合祀され久木村総鎮守 稲荷社が創建された。昭和45年久木神社と改称され現在に至っている。祭神 宇迦之御魂命。

元々この地には妙光寺持ちの草分稲荷があり、明治の神仏分離令により神社として独立

した。久木村総鎮守稲荷社の社殿建立により、現在は久木神社の後ろに社殿がある。

妙光寺 松岡雅楽之助が父母の冥福を祈るため建立されたとする、日蓮宗のお寺、山号 寺号法久山妙光寺は父母の法名に由来する。本尊 日蓮上人像。

松岡雅楽之助の父富永三郎左衛門は鎌倉公方足利持氏に仕えた御家人であったが、度重なる戦乱に嫌気がさし久野谷に遁世し、名も松岡富永とした。

江戸時代は名主であり、多くの土木工事を手がけ功績がある松岡家の前を通り岩殿寺に到着。

岩殿寺観音堂

岩殿寺は養老6年(722)行基による創建と言われる古刹、板東三十三観音霊場第二番札所として知られている。寺号の由来は行基自ら刻んだ石の十一面観音像を安置した岩窟があたかも堂宇のように見えたためと伝えられている。鎌倉幕府の滅亡により一時衰退したが、江戸時代初期、長谷川長綱により再興された、このとき真言宗から曹洞宗に改宗された。本尊 十一面観音立像



岩殿寺観音堂

観音堂右にある池は泉鏡花が寄進したもので、逗子で療養していた泉鏡花は度々参詣をしていた。

巡礼古道と呼ばれる道が第一番札所(杉本寺)と結ばれていたが、大部分が開発により消滅している。

参加者殆どが長い石段を登り観音堂をお参りし、逗子駅前広場に無事到着解散した。

(杉山茂 記)

古文書を読む会 学習記録			
第一学習		幕末志士の手紙	
日時	場所	内容	出席人数
2021年7月8日 (木) 10:00～	金沢公会堂 第二会議室	第一学習 幕末志士の手紙⑩ - 坂本竜馬最後と推定される手紙（11月13日付、暗殺は15日） 陸奥宗光殿に差し上げようと申しました脇差ですがまだ大坂から戻っていません - 竜馬から越前藩士中根雪江宛の手紙 以前お頼みした越前藩士三岡八郎の新政府への出仕は急を要します。彼の出仕が一日先になれば「新国家」の財政成立も一日先に延びるので早く藩主の許可を得るようにして下さい。 - 坂本竜馬暗殺に付き下関豪商伊藤九三から長府藩士三吉慎蔵ほか宛書状 坂本先生と中岡慎太郎が京河原町近江屋において、十五日夜に賊三人に襲われ竜先生は同夜御果て中岡も十七日に果てた由です。取り急ぎ報告します。又自分のところで預かっている奥様への連絡はまだ差し控えておりますので如何すべきでしょうか。 - 皇国乱擾之基礎（前半） 徳川慶喜は天下形勢やむを得ざるを察し大政は返上したが領地・人民はそのままである。恭順を尽くしているようにしているが、大坂城へ引き取ったのは陰謀で慶喜側から兵端開いたので謀反は明白である。	13名
2021年8月12日 (木) 10:00～	金沢公会堂 第二会議室	第一学習 幕末志士の手紙⑪ - 皇国乱擾之基礎（後半） このうえは征討軍を差し向け速やかに賊徒を平らげる。但し仮令 賊徒であっても悔悟し新政府軍に味方するならば、寛大の思召しを以て反逆の罪は許し採用されるであろう。 - 徳川慶喜の和宮（静寛院宮）宛嘆願書【慶応4年（1868）1月】 自分は尊王でしかも事件は一時の行き違いにより生じたものにも拘らず征討軍を差し向けられると聞き及びましたが、それでは騒乱となり尊王の私の本意ではなく叡慮を悩まされることにもなりますので、何卒私の心底をお察し下さり、徳川家永統と今後も朝廷に忠勤を尽くせるよう周旋賜りますようお願い申し上げます。慶喜 - 徳川慶喜 追討令 徳川慶喜は暴動鎮定の為と称し、大阪城に入り戦争の用意をしてから京都に突入し、敗れたと知るや関東へ逃亡した。その他いろいろあるがいずれの所為挙動も信用出来ない。慶喜は2月に至り恭順謝罪してきたが、それなら先供の賊徒を罰してから天朝にお詫びすべきだ。若し慶喜謝罪の旨趣が真正誠実から出たものと了解されるのであれば天朝は宸襟を悩まされるであろうか。 - 官軍追討差し向け猶予願い【慶応4年（1868）2月】 追討差し向け誠に以て驚き恐れ入ります。天皇の怒りに触れたこと一言もありません。これは偏に臣慶喜の不束より生じたものです。ついては下々に対し官軍に不敬のないよう命じ、東叡山に謹慎恭順致します。臣慶喜を罰し、江戸はじめ四方の士民が塗炭の苦しみを免れるため官軍の差し向けは何卒ご猶予のご奏聞給るよう泣泣懇願致します。慶喜	13名
2021年9月9日 (木) 10:00～	金沢公会堂 第二会議室	第一学習幕末志士の手紙⑫ 「五箇条の御誓文」 明治天皇が天地神明に誓ったもの。原案は福井藩士三岡八郎が起草。（案文省略） - 勝海舟が江戸城総攻撃阻止のため西郷隆盛に送った嘆願書---主君慶喜の真意を理解せず混乱に乗じて戦さを起そうとする者もいる。今は押えているが力も尽きかけ明日はどうなるかわからず、そうなると和宮様はじめ大切な方々のことが心配でたまらない。 官軍はこの現状をよく理解し正しい措置をとってほしい。 - 勝海舟奉答書下書き（「人心離反之御答」と題して提出したもの） 海舟が西郷隆盛に徳川処分について徳川家の領地を没収してはならないと提言。骨子以下の通り。1、今は田植えの時期で民は作業でくるしんでいる。2、恭順の条件など既に提出済み。3、御一新の費用は徳川より没収で賄うつもりの様だが、僅か4百万石程度では不足は自明。4、国不和を生ずれば滅びる国内人心離散してはならない。5、外国は日本の措置を注視している。	14名

古文書を読む会 学習記録			
第二学習		島原の乱	
日時	場所	内容	出席人数
2021年7月22日 (木) 10:00～	金沢公会堂 第二会議室	第二学習 島原の乱⑦ ・高来郡一揆蜂起の事（後半） 深江村の代官白石市郎右衛門は有馬村の代官林兵左衛門が百姓に討たれたと聞いて夜中に密かに抜け出し、嶋原城の三家老に報告した。 「この騒ぎはきりしたんではなく一揆である」と。更に家老たちは一揆鎮圧のため船30艘で有馬沖に下ったが天草四郎側に察知され、また対岸の寺社が放火されて接近できなかったため城に戻り防備を固めることにした。 ・郷人共嶋原へ取りかけ合戦のこと 嶋原城の家老田中宗夫は「郷人共のわがままをいたすこと許すまじ、打ち取るべし」とし、戦さの中心は城周辺と深江村に移り激戦となった。両陣営による各郷村加勢強制と弾圧も行われた。 しかし堅固な城は落ちなかった。初代松倉重政の菩提寺も放火された。	12名
2021年8月26日 (木) 10:00～	金沢公会堂 第二会議室	第二学習 島原の乱⑧ ・嶋原家老 近国の大名衆へ加勢乞われし事 家老が近国大名肥後・肥前・柳川・久留米の家老宛に使者を送り加勢をたのんだが、武家諸法度により幕府の許可がなければ加勢は出来ないため、籠城の武士等は自分で水を汲み食を炊いて空しく日を送った。 ・天草郡鬼理志丹多く起こりし事 天草郡にきりしたんがはびこったのは、代官もきりしたん宗旨を奉じたとの虚言を信じ恐れる者がなくなった事と、昔きりしたん大名小西行長の領地だった時代に帰依した者が多くいたこと。	13名
2021年9月22日 (水) 10:00～	金沢公会堂 第二会議室	第二学習 島原の乱⑨ ・唐津へ加勢乞いし事、唐津勢遅れて来着の事 福岡城番代三宅藤兵衛は天草の乱勃発鎮圧のため加勢を唐津へ求めたが、遅れて漸く原田伊予を総大将に二千の兵を送った。 ・益田四郎志岐村へ着陣し唐津勢福岡城へ籠城の事 四郎は本渡合戦に勝利し、三宅藤兵衛討死。 四郎は方々に自陣に加わるよう要求したので大勢の一揆勢が加わった。 しかし四郎陣営は福岡城攻め落としは容易と油断したため、その間に城防備を固めたため結局落城しなかった。	13名

「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.34

代 表 柴崎 幸治

独自コース 93 番 「神奈川県コース 10 番 太田道灌・日向薬師のみち」(通算 166 回)

今回は、「関東ふれあいの道 神奈川県コース」の「10 番 太田道灌・日向薬師のみち」を歩いた。本コースは前回「9 番 弘法大師と桜のみち」の終点の坪ノ内バス停を起点とし、丹沢、大山の山々を望む田園地帯の中、太田道灌の墓や奈良時代開創の日向薬師までの歴史と文化にふれるコースである。

朝 9 時 25 分に小田急小田原線の鶴巻温泉駅の北改札口に集合。現地の天候は降水確率 20%なれどゲリラ雨的な雲の塊がかすめる弱い雨模様である。北口のバス乗り場から伊勢原駅行のバスに乗り、起点の坪ノ内バス停へ。バスを降りると雨は大粒なり、一時「ゲオ(CD,DVD 等のレンタル買取等)」の入口の軒下を借り、約 5 分の雨宿り後、国道 246 号の歩道を上り方面に歩きだし、しばらく後に左に入ると里山に入る。畑、森の中を歩くとやがて長福寺、古びた階段をのぼり、お詣り。この辺りで雨は上がる。そこからは畑、みかん畑、百合の花が咲く里山などの道の歩き、比々多神社に到着。神社では茅の輪くぐりをしたり、中休止。神社を出て、家並み、田圃のある道を進み、「伯母様」バス停前を通り、鈴川の「伯母様橋」を渡り、県道、旧大山街道を横切り、上粕屋神社、道灌ゆかりの七人塚の前を通り、太田道灌の墓(撮影 P.)へ。そこから七人塚、上粕屋神社境内に引き返し、ここで昼食。昼食後は、上杉館跡(発掘中)、産業能率大学、新東名高速道路(伊勢原大山 I.C.付近の工事中)を見ながら、県道、家並みのある道を通り、やがて日向薬師へのバス通りである高部屋交差点に出て、渡り、左に行くとすぐによろい塚、この辺には多くの古墳があるとの看板、ここで中休止。メンバーの一人が近くのコンビニで買ってきてくれたアイス进行いただき、一息。この頃には日が差し、湿度の高い蒸し暑さである。よろい塚からは終点の日向薬師に向け、ひたすら歩道がありなしの道路を進む、途中には石材屋が数多くあり、石像が一杯並んでいた。日向溪谷・日向薬師のアーチをくぐり、十二神橋を渡るとやがて終点の「日向薬師」バス停である。皆さん、へとへと。10 分もすると折り返しのバスが到着。そのバスに乗り、伊勢原駅へ、そして駅前で解散。明日からは夏だろうと感じた一日の終わりであった。

実施日：2021 年 7 月 15 日(木) 天候：雨のち曇りのち晴れ 歩行時間：約 4 時間 歩行距離：約 10km

参加者：16 名(男性 12 名 女性 4 名) コース所在地：神奈川県 伊勢原市

交通：往路：京急 金沢文庫 7:54 発 ⇒ 8:13 着 横浜 [相鉄] 8:25(特急) 発 ⇒ 8:55 着 海老名 [小田急] 9:06 発 ⇒ 9:19 着 鶴巻温泉 バス 鶴巻温泉駅北口 9:35 発 ⇒ 9:45 着 坪ノ内バス停

復路：日向薬師バス停 14:20 発 ⇒ 14:40 着 伊勢原駅 [小田急]伊勢原 14:48 発 ⇒ 15:11 着 相模大野 [江ノ島線乗換] 15:26 発 ⇒ 15:41 着 湘南台 [横浜市営地下鉄] 15:47 発 ⇒ 16:09 着 上大岡 [京急] 16:15 発 ⇒ 16:22 着 金沢文庫

コースと時間：坪ノ内バス停 9:50 ⇒ 10:15 長福寺 10:25 ⇒ 10:50 比々多神社 11:10 ⇒ 11:45 太田道灌の墓(撮影 P.) 11:50 ⇒ 12:00 上粕屋神社[昼食] 12:35 ⇒ 13:15 よろい塚 13:35 ⇒ 14:05 日向薬師バス停 14:20 発バス ⇒ 小田急 伊勢原駅前[解散]

ご存じでしょうか！「伯母様」バス停、「伯母様橋」の伯母様とは？

言い伝えによれば、昔、この地に武内宿禰(たけうちのすくね)の伯母様が住んでおり、かつてはこの辺りを「伯母様宿」と呼んでいた。武内宿禰とは、244 年間も生きて、景行、成務、仲哀、応神、仁徳の 5 人の天皇に仕えたという、古事記、日本書紀に登場する大和時代の伝説上の人物である。他、諸説あり。(Web 等より)

道灌に思いを馳せて夏の雲 一 祝



比々多神社にて



撮影 P.:太田道灌の墓にて

「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 NO36

代表 鶴岡重典

手紙

観賞日 2021年8月9日 上映時間 121分

【概要】

制作 2006年

原作 東野圭吾 『手紙』

監督 ショウフ 生野慈朗

脚本 安倍照雄、清水友佳子

音楽 佐藤直紀

撮影 藤石修

出演 山田孝之（武島直貴）、玉山鉄二（武島剛志）

沢尻エリカ（白石由美子）、吹石一恵（中条朝美）、尾上寛之（寺尾祐輔）

風間杜夫（中条）、杉浦直樹（平野会長）



【あらすじ】

幼くして両親を亡くした武島剛志、直貴兄弟。兄はできのいい弟を進学させようと盗みを働き誤って殺人を犯してしまう。終身刑で刑務所に入った兄の唯一の楽しみは弟とやり取りする手紙であった。大学進学をあきらめた弟はお笑い芸人を目指す。殺人犯の弟ということがばれてアルバイトの職を失う。その後も、世間の風は加害者の親族に冷たく、兄の存在に苦しめられる弟。塀の中で相変わらず弟からの手紙を楽しみにする兄と、塀の外で兄を疎ましく思うようになる弟。いつしか手紙のやり取りも途絶えてしまうが……。弟を思って犯した犯罪が弟を苦しめ、お笑いコンビ、テラタケもコンビ解消。二人っきりの兄弟関係が壊れていくなかで、最後に踏みとどまり再生に向かって歩み始めるラストシーン。重い過去の十字架から解放され、再生に向けて歩む兄弟にエール。

【解説】

■ポイント

●ベストセラー作家東野圭吾の原作を映画化

- ・原作は東野圭吾の直木賞候補作。（東野の直木賞受賞作は「容疑者Xの献身」）
- ・犯罪加害者の家族の視点から捉えた小説（＝加害者の家族も被害者となる）
- ・東野作品の映画化（主要なもの）
「容疑者Xの献身」（2008年）、「白夜行」（2011年）
「ナミヤ雑貨店の奇跡」（2017年）



■見どころ

●泣かせるラストシーン

弟役山田孝之の兄をネタにした漫才シーン、それを聞いている兄役の玉山鉄二の涙、バックに流れる小田和正の歌（「言葉にできない」）の三つが相俟って観客の涙を誘う感動のシーンとなっている。

●暗く重いテーマを主演三人が好演

兄弟役を演じた山田孝之と玉山鉄二は演技力に定評のある俳優。

沢尻エリカも主人公を励ます健気な妻を好演。

●弟の再生を促したものは？

オーケストラ！（Le Concert）

観賞日 2021 年 8 月 23 日 上映時間 119 分

【概要】

制作 2009 年 フランス

監督 ラデュ・ミハイレアニウ

音楽 アルマン・アマール

撮影 ローラン・ダイヤン

出演 アレクセイ・グシュコフ（アンドレイ・フィリポフ）

メラニー・ロラン（アンヌ＝マリー・ジャケ）、

ドミトリー・ナザロフ（サーシャ・グロスマン）

ミュウ・ミュウ（ギレーヌ）、フランソワ・ベルレアン（オリヴィエ・デュブレシス）



【あらすじ】

ボリショイ管弦楽団の天才指揮者であったアンドレイ・フィリポフは今や清掃員をして生計を立てている。アンドレイはブレジネフ政権に逆らい、人民の敵として楽団を追われた過去がある。ある日、清掃作業中見かけたファックス。楽団の支配人宛にパリのシャトレ座から届いた公演の依頼状。そこで、アンドレイはとんでもないことを思いつく。かつての仲間を集め、ボリショイ管弦楽団になりすましパリで公演を行うという計画だ。親友のサーシャの力を借りて 30 年間、音楽から遠ざかっていた仲間を大至急集める。演目はチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲。主役のソリストは新進気鋭で 29 歳のスター、アンヌ＝マリー・ジャケに決まる。難問をクリアして花の都に乗り込む楽団員。公演の前夜、アンドレイはアンヌ＝マリーと会食する。アンヌ＝マリーはそこで自らの過去を語る。次第に明らかにされる亡くなったアンヌ＝マリーの両親とアンドレイとの関係。一旦は共演を断ったアンヌ＝マリーであったがアンドレイと同じ舞台に立つことを決意し、いよいよ舞台の幕が上がる。楽団員は 30 年間のブランクを超えて再び輝きを取り戻せるのか。自らの出生の秘密を知ったアンヌ＝マリーは。

「笑って、泣かせて、聴かせる」映画の愉しみを存分に堪能させてくれる感動作。

【解説】

■ポイント

●チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲

- ・1878 年に作曲
- ・ベートーベン、メンデルスゾーン、ブラームスのヴァイオリン協奏曲とともに、四大ヴァイオリン協奏曲といわれている。
- ・本作以外にも映画やテレビドラマにたびたび使われている名曲
「北京ヴァイオリン」（映画・2002 年）
「のだめカンタービレ」（テレビドラマ・2008 年）

●受賞（第 35 回セザール賞）

6 部門にノミネートされ、2 部門で受賞（音楽賞・音響賞）

■見どころ

●前半はコメディ、ラストは感動シーン

奇想天外の立ち上がりから、ラストは過去の秘密が明かされオケとソリストの気持ちが一つに通じあう感動のシーン。



それでもボクはやってない (I Just Didn't Do It)

観賞日 2021 年 9 月 13 日 上映時間 143 分

【概要】

制作 2007 年

脚本・監督 周防正行

撮影 栢野直樹

音楽 周防義和

出演 加瀬亮（金子徹平）、役所広司（荒川正義）

瀬戸朝香（須藤莉子）、もたいまさこ（金子豊子）

山本耕史（斎藤達雄）、鈴木蘭々（土井陽子）

正名僕蔵（大森裁判長・最初の裁判長）、小日向文世（室山裁判長・2 番目の裁判長）

尾身としのり（新崎検事）、大森南朋（山田好二）、光石研（佐田満）



【あらすじ】

満員の通勤電車内で痴漢事件が起きる。就職の面接を受けるために乗車していた 26 歳のフリーター、金子徹平は身に覚えのない罪で現行犯逮捕される。一方的に犯人と決めつける警察の対応ぶりに徹平は憤慨し、頑なに無実を主張する。当番弁護士と接見し、事件の詳細を話すか逆になにを勧められる。送検、勾留と進みようやく母親の豊子と親友の達雄が面会に現れる。豊子と達雄の尽力で担当となった弁護士の荒川は徹平を励ますが、それでも否認事件の無罪率は 3% だという。起訴されて裁判が始まる。同様の痴漢冤罪事件で係争中の被告人、佐田のアドバイスを受けて弁護側も巻き返しを開始。公判も回を重ね、検察側の杜撰な証拠が露呈される。しかし、裁判官が突如変わり法廷の雰囲気も微妙に変わる。裁判の行方を左右すると思われていた唯一の目撃女性が現れて弁護側有利と思われたが、検察の求刑懲役 4 か月に対し、裁判長が下した判決は・・・。

日本の司法制度の矛盾を鋭く突く迫真の法廷劇。冤罪事件に果敢に斬り込んだ周防正行監督渾身の問作。

【解説】

■ポイント

●刑事事件の主な流れ

犯罪発生→捜査【警察】→逮捕【警察】→送検【警察→検察】→勾留【検察→裁判所】→起訴【検察→裁判所】→裁判【検察・弁護士】→判決【裁判官】

●周防正行

- ・1956 年東京生まれ。立教大学文学部卒業。
- ・「シコふんじゃった」（1991 年）、「Shall We ダンス」（1996 年）で 2 度アカデミー監督賞を受賞。夫人は「Shall We ダンス」主演女優の草刈民代
- 音楽担当の周防義和は実弟



●受賞

- ・第 31 回日本アカデミー賞：11 部門でノミネート、3 部門で受賞
助演女優賞（もたいまさこ）、美術賞（部谷京子）、編集賞（菊池純一）
- ・第 81 回キネマ旬報ベストテン：日本映画ベストワン

■見どころ

●浮かび上がる司法の世界の実態、炙り出される問題点

役所広司、正名僕蔵（モデルは人権派裁判官と呼ばれた木谷明）に語らせる台詞

浮雲俳句会

代表 太田 耕蔵

9月句会（151回例会）はコロナ緊急事態宣言のため会場の確保が出来なかった。北野代表が今年2月に亡くなられたため新体制で臨んだ新年度入りの4月から句会活性化の目玉として投句、選句表の作成・配信のデジタル化を進めてきたことで会員サイドのPCへの順応性が見えてきた。そこで、メールのやり取りによる「メール句会」を実施した。初めての「メール句会」、会員各位も結構楽しめたようで、若干の課題が残ったものの今後も会場の確保が不可能の場合などに句会の一方法として実施していきたいと考えている。

149回例会 令和3年7月25日

十九選の秀句と選評

文読みて寡黙なる父遠い雷

春 駒

十七文字の短詩では、言い尽くすのは不可能なことは、いつも言われることです。だから、想像させることが、ある意味俳句の不可欠の要素ではないでしょうか。「文」はだれからのものか、父は何故寡黙なのか。私は、文は遠くにいる息子からの手紙と読みました。それを読んで、父が、寡黙になってしまった。何が、書いてあったのでしょうか。そして、「遠い雷」です。傍で見ている私にも、その遠雷は、遠くの息子の遠慮がちな訴えに聞こえます。私小説の世界のような、想像を生む句だと思いました。

戦地から父母への文に汗の染み

重 九

この句も、想像の広がる句です。もう、八十年も過ぎたあの戦争中に、兵士として戦地にいた息子の、汗の染みた手紙。「汗の染み」が、様々なことを想像させます。何故か、私は、これを読んで、ふっとひばりの歌った「一本の鉛筆があれば」の歌声が聞こえました。「戦争は嫌だと私は書く」と歌っているあの歌です。父親や兄上を亡くされた人には、特に、感慨深い句ではないでしょうか。

陽をよぎる風の使ひや黒揚羽

和 女

この句は、「風の使ひ」という工夫を凝らした措辞のユニークさ、斬新さが、最大の魅力であろうかと思えます。誰もが知っているもの、知っている物事を、どう魅力ある十七文字に収めるかは、誰もが工夫し、苦労するところだと思います。黒揚羽が舞っているという、ありふれた情景が、何か新鮮な情景に変身するかのよう。言葉の魔術と言える世界でしょうか。

会員選の特選句と自評

朽ちかけし苔の札所や蟬しぐれ

二 祥

私は坂東三十三観音霊場巡りを三年前に始め、あと六寺を残している。この一年半はコロナで中断している。今回はその中、第一番札所鎌倉・杉本寺参拝した事を詠んでみた。この寺はご存じのとおり苔の階段・参道が有

名です。朽ちかけて、現在は封鎖されている為登ることは叶わず、唯々真夏の蝉時雨の札所にひとり佇んだ。故北野師なら月並俳句の一言かも知れない。

昼寝覚少女は老女に戻りけり

とも女

年を重ねると、特に夏は疲れやすく、昼寝をする日が増えました。夢は滅多に見ないのですが、ときには、鮮明に記憶している夢を見ることがあります。旅の途中に迷子になったり、遅刻して、置いて行かれたり、後味の悪い夢が多いのですが、時には、過去の友達や仲間や家族や親類の人たちが登場してきて会えることは、むしろ感動を覚えます。とくに、多感な少女時代や若かりし頃に会った人たちが現れると、その時の会話や情感が思い出され、ときどきします。しかし、はっと目覚めれば、すっかり老いぼれた自分がいて失望するのですが。

涼しさや真一文字の飛行雲

十 九

広く深い蒼穹を真一文字に横切っていく一本の純白の線。音も聞こえず先頭の機体も殆ど見ることはない。全ての飾りを捨て、ただ広い青と真っ直ぐな白線のみで描く無限の世界は、まさに清涼感溢れる一幅の絵。ふっと、あの芭蕉の名句が心をよぎったのも事実である。

さわさわと葉音水音川床料理

二 祥

コロナ禍のステイホーム、暑い日が続きます。そんな時、京都の奥座敷貴船の清流と爽やかな風の川床で鮎料理をいただいた事を思い出し、擬音語を入れてリズム良く詠んでみました。余計ですが、「川床」とは京都の五〜九月頃まで、鴨川や貴船川の流れの上に床を設けた宴席を云い、清涼感あふれる夏の京都の風物詩のひとつです。因みに鴨川の床は「ゆか」、貴船・高雄の床は「とこ」又は「どこ」と云うそうです。

二藍の浴衣美人や色溢る

重 九

二藍は古く平安時代に愛好された色だそうで、藍の上に紅花を染め重ねた明るく渋い青紫色をいうが、この言葉に初めて出会ったときその美しい言葉とその色の生い立ちに思いを馳せグッときた記憶があり、一度使って見たいと思っていた。歌舞伎座の幕間に弁当を買いに行ったとき、売店で出会った美しく・さわやかな色気を漂わせた浴衣のご婦人と重ねて詠んだ句である。

打ち水に濡れた敷石下駄の音

三 洋

句会の合評で「打ち水に光る敷石下駄の音」の方が良いとのではとの意見も出た。昭和の時代、市井の人は、夏、坪庭や露路に打ち水をシタ方になると浴衣を着、下駄を履き、外に出て涼を愉しんだ。その情景を懐かしく思い出してこの句を詠んだ。

150 回例会 令和 3 年 8 月 29 日

十九選の秀句と選評

夢に夢重ねて八十路秋立ちぬ

あきえ

過ごしてきた八十年の人生を振り返る時、誰しもが、重ねて来た幾つもの夢のあとに、様々な思いを致すに違いないであろう。純粋な飾りのない子供時代の夢、苦しみながらの受験時代の夢、青春の夢、社会人となってからの飛躍の夢。しかし、その多くは、叶えられることがなかった、まさに、夢であった。そして、今迎えた人生の秋。だが、悔いはない。「秋立ちぬ」に、さらりとしたその気持ちが詠まれている。

秋の蝶翅たたみつつ夢は野に

和 女

思うままに自由に、翅を広げて花野を翔びまわって生きる歓びに満たされた日々。が、秋を迎えると、その蝶も翅をたたむ時となる。年を重ねてきた自分を、今、その蝶にかさねている。だが、中々すんなりと諦め、夢を捨てさることは出来ない。あの花野を、まだまだ思うままに飛翔したい思いがある。「翅たたみつつ」の夢が、さりとしていて深いものがある。芭蕉の、あの一句が、心の底にあるのであろう。

新涼や素肌に触るる天の息

和 女

「天の息」とは大自然の息、つまり、この地球世界の四季の謂いであろう。四季とは、まさしく、天の息なのである。その、季節の移り変わりの新涼の清々しさを、素肌、即ち全身でそのままに感じ取っている。酷暑の夏を乗り切り、爽やかな秋を迎え、充実の日々を過ごす決意を新たにしているのであろう。

特選

閉ぢられぬ傘の危ふさ原爆忌

十 九

世界で唯一の被爆国である我が国は、核兵器の非人道的な恐るべき破壊力を体験し、二度とあのような事があってはならないと、強く心に植え付けている。しかし、自国に核兵器を持たない我が国は、安全を守るためにと他国の核の傘で保護されているのが、現実である。だが、核兵器は、それ自体が極めて危険な、非人道的な破壊力を持つ兵器なのであり、そんな傘は、一日も早く閉じられて、真の世界平和が実現される日が来ることを願うものである。この国の人々にとっては、誰しもが同じ思いをしている原爆忌ではあるまいか。

老いらくの夢さまよへる秋草野

十 九

八十年を生きてきても、人生には、夢はつきものである。勿論、若い時代のものとは、異なる次元のものではあるが、老いには老いなりの、それを受け入れたうえでの、様々な夢がある。秋野原とは、言ってみれば、限りない広さ、大きさを求めて力の限りを尽して生い茂った夏野の一つの到着点とも言える実りの光景でもあろうか。その、秋野原に到達して見ている夢に、確かな足取りが失せつつあるのも、致し方ないことなのでもあろうか。

野の風を葉陰にとどめ葛の花

和 女

葛は野山に、空地に、身近な至る所に蔓を伸ばし、樹木や草むらを覆い尽くします。根からは葛粉や薬が取れるのは知られていますね、秋の七草のひとつでもあり、広い三小葉が風に翻る光景は古くから和歌に詠まれています。花はその大きな葉の茂りの中に見え隠れし、見落としがち。この時期、紅紫色の総状の花を探して歩くことがあります。今作っている磁器に描く題材として、私にとってはどうしても実際に目にしたい花です。

老いも末明日の夢追ふ万年青の実

重 九

馬齢を重ねて、60代の老いの初め、70代の老いの半ば、80代の老いの末も後半に入った自分であるが、常に明日の夢を持って明るく元気に長生きができればとの願いを万年青（花言葉：長寿）の赤い実（活気）に託して詠みました。芭蕉の句に「旅に病んで夢は枯れ野をかけめぐる」という名句があります。

赤蜻蛉遊ぶ園児の輪の中へ

とも女

蜻蛉の中でも、赤蜻蛉は、特に美しいので、秋の風物として親しまれてきた。都会でも、水際に、群れている風景を見かける。掲句は、長野への旅先のことである。お寺の境内から、かわいい歌声が聞こえてきた。お寺が経営している幼稚園であらう。少人数の園児が、輪になって、遊戯をしていた。そこへふいと赤蜻蛉が、

飛んできた。園児たちは、気が付いたが、さして大きな声を出すでもなく、追いかけるでもなく、そのまま、赤蜻蛉と共演しているように見えた。きっと、これは、日常の風景で、常に自然と共生している様子が羨ましかった。

亡き母に尋ねてばかり盆支度

春 駒

盆と言うと8月13日の迎え盆から16日の送り盆が一般的ですが、結婚してからというものの実家に帰省する時はすでに14日から15日になっていましたので、お盆の支度は母がしていました。父も逝き母の初盆の時。盆の準備をしてもいっこうに進まず、あれがないこれはどこと答えてくれるはずはありませんが、仏壇の母に聞きながら何とか支度を終えました。子供の頃から見てきた盆は独特の雰囲気があり、子供心にも盆が終わると一抹の淋しさを覚えました。盆提灯のゆらめく灯と線香の香は今でも鮮明に刻まれています。

日と風の織りなす芒銀ひといろ

祥 代

箱根の芒ヶ原を思い出して詠んだ句です。一面の芒のすばらしさに息を飲んだ時のことです。お日様に照らされて気持ちよさそうな芒たち。風が吹けばそれに逆らうことなく全部の芒が身を委ね、それぞれが銀色の濃淡で、それはそれは美しい光景です。そんな芒たちを愛でて詠んでみました。

白木槿今日の一日を全うす

あきえ

此のところ朝庭に出ると木槿が良く咲いています。花芯まで純白で見ていると心洗われる思いです。夕方になると花卉を閉じて地上に白いまま落ちていきます。

僅か一日の命、精一杯咲き誇り潔く散っていく姿。それを見るにつけ私の日々は反省することばかり多く「今日一日を全うせよ」と諭されているようです。

151 回例会 令和3年9月

十九選の秀句と選評

常夜灯夜明けを告げる遠霧笛

春 駒

何よりも、流れに無理がなく、一読してすんわりと詩情の中に入り込めて、清々しい気分になれるのがいい。しかし、少し立ち止まってみると、それだけではないことに直ぐ気付く。「夜明けを告げる」の主張がそれである。一夜を照らし続けた常夜灯に、感謝の心を持ちながらも、その働きに終りが近づいたことを伝えなければならない。その役割の心遣いを「遠霧笛」に含ませている。われ等世代の、誰もが心の裡に抱いている心情の句と言えるのではないか。

山の湯の桎目の桶や秋の宵

二 祥

目の前の、平凡なありふれた日常を、飾りも誇張もなく、淡々と云い留めている。しかし、桎目の風呂桶と山の湯の取り合わせは切れ味鋭い着眼力がなくては、叶わない発想ではないだろうか。山の湯なればこそ、桎目の桶が生きているし、そこから広がる様々な思いとも繋がってくる。或いは、新婚旅行も、山の湯だったのではないか。小さな木の桶一つが、あれやこれやの思いと繋がって心と和むものがある。

曼珠沙華兵たちの無念の手

春 駒

この着想の鋭さ・大胆さに先ず驚きを禁じえなかった。敵の銃弾を浴びて血まみれになって倒れた兵士が、その血まみれの手を泳がせて空しい最後のあがきをしている。故郷の母に縋ろうとしているのか、残してきた我が子を撫でようとしているのか。曼珠沙華の深紅の花に、その兵士の無念の手を見ている。曼珠沙華の花言葉は「悲しい思いで」だとも言われているが、あのような悲しい思いは、二度とあってはならないと、強く訴えている。

天国に余席をさがす秋の暮れ

勇 平

紅葉の季節を楽しんだ秋もそろそろ果てようとする頃、わが身を顧みればこの世ともそろそろ、お別れが近づいている。三途の川を渡って天国に行ければよいが・・・そこに自分の居場所が見つければ幸いである。

秋耕の鍬の捌きや古い自慢

一 梶

私は50歳前半から60歳代後半の約15年間自宅に近い30坪の空地进行を借りてピーマン、ごうや、トマト、きゅうりなどの夏野菜を作り、畑作業を楽しんだ。秋の今頃（9月～10月）は次に向け汗まみれになりながら鍬で土づくりに励んだ。持ち主の都合で借地を返却してから15年程経った。今まで続けていたら恐らく元気に畑仕事をしていただろうことを想い描いて詠んだ。

日の斑ゆれ人生の午後秋の蟬

春 駒

定年を迎えた、今はもうこの世にいない父の姿を見てきて、自分の時はどうなるんだろうと漠然と思っていました。もう仕事に縛られなくていいんだと喜んでいたのは2か月ほど。日課にした散歩をしていると、ジョギングをしている人、高齢のご夫婦、リハビリなのか支えられながら歩いている人や幼い子の手を引く親子連れなどに会います。人生の午後に立ち、老いていくだけの自分とどう向き合えばいいのか迷い戸惑いながらただ木漏れ日の中を歩く自分自身の句を詠みました。

点滅の淡き未練や秋螢

十 九

長い道程を歩いてきて、好むと好まざるとに係わらず終りの近づくのを意識するようになるのは、誰しも致し方のないことであろう。秋螢の灯は、あの夏の空いっぱいには歓喜の乱舞を見せた螢合戦とは、全く趣の異なるものとなっている。その、ほのかな淡い灯の点滅は、矢張り終りの近いことを自覚した故の、淡い未練の色を隠せないものでもあろうか。そして、それを見る者もまた、いつの間にか同じような心の境地に身を置いてしまうことになる。

尺八の首の奏法萩こぼる

勇 平

古来から伝わる尺八は日本の代表的な楽器である。「首の奏法」という言葉があるか否かは知らないが、俗に「首振り3年ころ8年」ともいう。あごの上下動や、横に振るなどして音の加減が出来る。居間から流れくる尺八の音色に、庭に咲く萩がうなずくように応える。

パソコンを使いこなす会 実施報告【6】

2021 年 7 月～9 月

2021 年度 第 7 回分科会

- 日時：7 月 13 日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Word 講座—画像付き文書—
 1. Word97—2003 文書の作成
 2. 背景の作成
 3. ワードテキストの編集
 4. 画像の挿入
 5. 文章のコピー/貼り付け
 6. 図形のグループ化
- 参加者：14 名+Z3 名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2021 年 7 月 13 日_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

2021 年度 第 8 回分科会

- 日時：2021 年 7 月 20 日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Internet 講座—YAMAP—
 1. YAMAP アプリをインストール
 2. 会員登録
 3. ログインする
 4. 地図をダウンロードする
 5. 活動を記録する
 6. 活動日記の編集
 7. YAMAP ルート情報をパソコンで編集
- 参加者：17 名+Z3 名
- テキスト 1：パソコンを使いこなす会_2021 年 7 月 20 日_テキスト
- テキスト 2：パソコンを使いこなす会_2021 年 7 月 20 日_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト 1 を見ることが出来ます。



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト 2 を見ることが出来ます。

➤ 作品集

この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、作品集を見ることが出来ます。



2021 年度 第 9 回分科会

- 日時：8 月 10 日（火）9：30～12：00
- 場所：オンライン
- 内容：Word 講座 ービジュアル文書ー
 1. レイアウト
 2. 文字サイズ、文字揃え、太字、下線、色
 3. 蛍光ペンの色
 4. 箇条書き
 5. 行と段落の間隔
 6. ドロップキャップ
 7. 文章の続きを次のページに送る
 8. ワードアートに変更する

この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト 1 を見ることが出来ます。



- 参加者：Z17 名
- テキスト 1：パソコンを使いこなす会_2021 年 8 月 10、17 日_テキスト
- テキスト 2：パソコンを使いこなす会_2021 年 8 月 10、17 日_作成手順・作成見本

この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト 2 を見ることが出来ます。



2021 年度 第 10 回分科会

- 日時：8 月 17 日（火）9：30～12：00
- 場所：オンライン
- 内容：Word 講座 ービジュアル文書ー
 9. 地図の挿入
 10. 画像の挿入・編集
 11. 画像のデザインを変更する
- 参加者：Z20 名

この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト 1 を見ることが出来ます。



- テキスト 1：パソコンを使いこなす会_2021 年 8 月 10、17 日
_テキスト
- テキスト 2：パソコンを使いこなす会_2021 年 8 月 10、17 日
_作成手順・作成見本



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト 2 を見る事が出来ます。

2021 年度 第 11 回分科会

- 日時：9 月 14 日（火）9：30～12：00
- 場所：オンライン
- 内容：Internet 講座 ー動画編集（フォト）ー
 - 1.「フォト」の準備
 - 2.動画の取り込み
 - 3.動画の編集
 - A) トリミング
 - B) タイトルカードの追加
 - C) テキストの挿入
 - D) 速度の変更
 - E) 分割
 - F) 削除
 - G) 音声の削除
 - H) BGM
 - 4.作品を保存
- 参加者：Z20 名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2021 年 9 月 14 日-1_テキスト
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2021 年 9 月 14 日-2_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト-1 を見る事が出来ま



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキスト-2 を見る事が出来ま

2021 年度 第 12 回分科会

➤ 日時：9 月 21 日（火）9：30～12：00

➤ 場所：オンライン

➤ 内容：Internet 講座 － ドライバー －

1.ドライバーとは

2.デバイスマネージャー

3.周辺機器の接続とドライバー

4.ドライバーのインストール例

5.Windows 更新

6.DriverMax

➤ 参加者：Z21 名

➤ テキスト：パソコンを使いこなす会_2021 年 9 月 21 日_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み
込むと、テキストを見ることが出来ます。

行事予定

2021年12月～2022年2月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	12月	1月	2月
学習会	予定なし	予定なし	2月19日(日) 9:30～12:30 横浜市立大学カメラホール 【戦国江戸湾の海賊】 青山学院大学非常勤講師 真鍋淳哉氏
寺社を巡る会	12月2日(木) 10:00 集合：JR 鎌倉駅西口時計台広場 テーマ：「13人の宿老」北条義時 訪問先：鶴岡八幡宮、宝戒寺、大蔵 幕府跡、義時法華堂跡、義 時大蔵邸推定地、覚園寺	1月6日(木) 10:00 集合：JR 鎌倉駅西口時計台広場 テーマ：霊峰富士と鎌倉の福神 訪問先：御成通り、長谷寺、御霊神 社、稲村ヶ崎	2月3日(木) 集合：時間・場所未定 テーマ：座学 DVD鑑賞(百寺巡礼) 観世音寺(福岡)、人吉別院 (熊本)、本妙寺(熊本)
古文書を読む会	12月9日(木) 10時～12時 場所：金沢公会堂第二会議室 テーマ：参勤交代(松平春嶽)③ 12月23日(木) 10時～12時 場所：金沢公会堂第二会議室 テーマ：島原の乱⑫	1月13日(木) 10時～12時 場所：未定 テーマ：参勤交代(松平春嶽)④ 1月27日(木) 10時～12時 場所：未定 テーマ：島原の乱⑬	2月10日(木) 10時～12時 場所：未定 テーマ：参勤交代(松平春嶽)⑤ 2月24日(木) 10時～12時 場所：未定 テーマ：島原の乱⑭
ふれあいの道歩こう会	12月1日(水) 予備日3日(金) 大仏ハイキングコースを歩く 神奈川県 鎌倉市 横浜市	1月20日(木) 予備日21日(金) 花と眺望の山 にのみや 吾妻山公園 神奈川県 二宮市	2月17日(木) 予備日18日(金) 青梅丘陵トレイル 埼玉県 飯能市
懐かしの映画を観る会	12月13日(月) 金沢CC 12:15～ 情婦 12月27日(月) 金沢CC 12:15～ 悪い奴ほどよく眠る	1月10日(月) 金沢CC 12:15～ シェルプールの雨傘 1月24日(月) 金沢CC 12:15～ 駅馬車	2月14日(月) 金沢CC 12:15～ Wの悲劇 2月28日(月) 金沢CC 12:15～ グラントリノ
浮雲俳句会	12月26日(日) 10:00～ 第154回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	1月30日(日) 10:00～ 第155回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	2月27日(日) 10:00～ 第156回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句
パソコンを使いこなす会	12月14日(火) 未定 EXCEL 講座 ーExcelで描く図ー 12月21日(火) 未定 EXCEL 講座 ー例題演習2ー	1月11日(火) 未定 Internet 講座 ーGoogleサービスー 1月18日(火) 未定 Windows 講座 ーデバイス(音声・映像)ー	2月8日(火) 未定 EXCEL 講座 ーVBA その1ー 2月15日(火) 未定 EXCEL 講座 ーVBA その2ー

連絡先

- ・学習会 080-6755-1473(江口) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 783-0278(太田)
- ・ふれあいの道歩こう会 790-0128(柴崎) ・懐かしの映画を観る会 080-5172-6151(鶴岡)
- ・寺社を巡る会 090-3535-8639(金久保) ・パソコンを使いこなす会 090-2539-8202(相川)

編集後記 2021年を振り返るには少し早いですが、10月から緊急事態宣言が解除され、新しい局面を迎えたので私なりに総括してみた。「まん防」「緊急事態宣言」の適用、中止と振り回されて行動も制限された。その中で“わ”の会学習会は中止されず実施できたのには役員に感謝申し上げたい。外出自粛していたので、“わ”の会に参加して皆さんの元気な顔を見ると癒されました。又、ワクチン接種に翻弄されて、必死に予約できてホッとした自分がいました。コロナ感染者は減少傾向ですが、これからインフルエンザ等の感染者の多い冬を迎えますので、「そんな時代もあったね」といつか話せる日が来る」と信じて皆さん元気に過ごしていきましょう。 (熊谷信雄記)	発行日	2021年11月13日
	発行月	年4回発行(2、5、8、11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	鶴岡 重典
	編集委員	兒玉 國宏 千々木 雅也 佐藤 和弘 松崎 寛 熊谷 信雄 橘 博章 斧原 良一 山腰 策次郎